

気象情報システムの構築

6H-9

伊藤 小琴 冠谷 大 川村 陽子 前川 仁孝 伊與田 光宏

千葉工業大学

1. はじめに

近年、気象情報に対する重要性が増してきている。また気象予報士制度の発足により、気象に興味を持ち学習したいと思う人も増えてきた。しかしまだまだ難しい専門書が大半で、現状ではとても良い学習環境とは言えない。また、最近気象データ集等もCD-ROM等で配布されているが、それらのほとんどがMS-DOS版又はWindows版であり、このようにプラットフォームに依存してしまうのでは利用者にとって不便極まりない。また、近年のコンピュータの普及、インターネット利用の爆発的増加により、インターネット上で気象情報を提供するサイトも多く見られるようになったが、それらはインターネット上に散在し、得たい情報をすぐに取り出せるような状態にない。

本研究では、気象情報サービスとして最新の気象情報が閲覧でき、初心者でも気軽に気象について理解できる環境を提供するシステムの構築を行う。

2. システム提案

本研究では、以下の機能を作成する。また利用者の対象は一般の人向けであるので、気象についてより興味を持たせることに重点を置く。

- 気象現象解説機能
 - ・動画等の利用
 - ・用語集とのリンク
 - ・動画はDirectorにより作成
- 最新気象情報閲覧機能
 - ・Web上の既存の気象関係サイトを利用
 - ・気象現象解説機能とリンク→解説の強化
- 気象予報士試験
 - ・試験情報
 - ・試験対策講座
- データベース
 - ・過去の気象データ（天気図、ひまわり画像等）
 - ・気象用語と解説

3. システム構成

本システムの構成を図1に示す。システムは気象現象を解説するモジュール、最新の天気予報を表示するモジュール、気象予報士試験に関するモジュール、気象用語や過去の気象データを格納したデータベースのモジュールで構成されている。

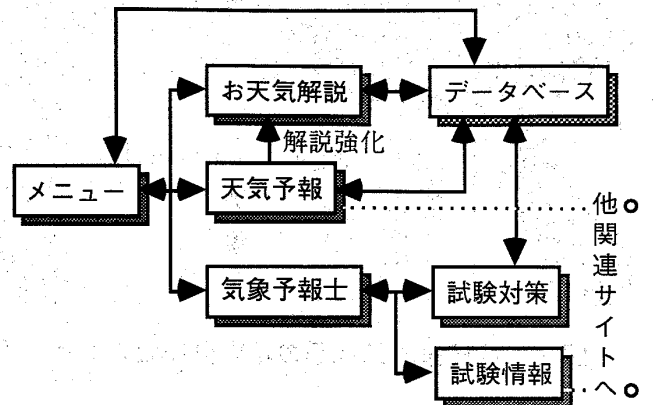


図1 システム構成

解説・予報・予報士のモジュールは気象用語データベースと、また予報士（試験対策）は気象データデータベースにリンクしている。また、メニューからも用語・気象データの検索は可能である。

3. 実行例

図2に実行画面例を示す。気象変化を静止画ではなく動画とすることでより理解しやすく、親しみの持てる画面になった。例では、ひまわり画像とそれに対応した天気図を並べ、同期的に表示させた。

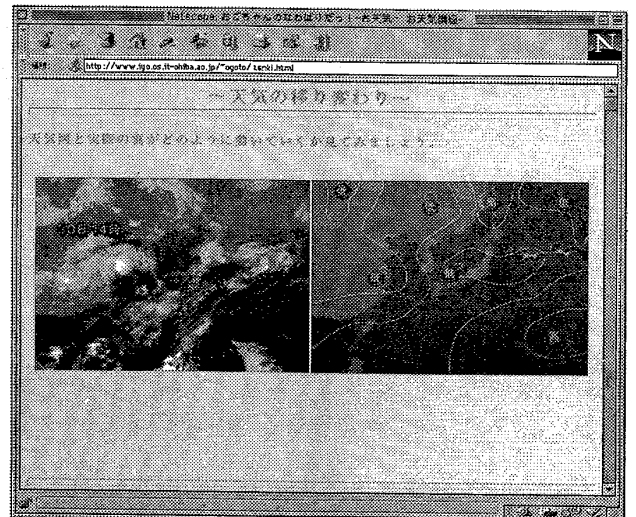


図2 画面例

4. おわりに

本研究では、気象情報を得るシステムの構築を行った。インターネットを利用することにより、プラットフォームに依存しないシステムの構築を実現した。気象現象の解説に動画を利用することにより、利用者が理解しやすく興味を持たせることができた。

Weather Information System

Ogoto ITO, Dai KAMURIYA
Yoko KAWAMURA, Yositaka MAEKAWA
Mitsuhiro IYODA

Chiba Institute of Technology